

# R7 第1回定期学校訪問にみる授業改善の好事例と今後の課題

## 好事例等

### 1 児童・生徒の主体的な学びの促進

児童・生徒が自ら学びに向かう姿勢を育むための工夫や、学習課題の選択・創作的活動などを通じた主体性の育成に関する事例

#### <小学校>

##### ○児童の発言を基にした課題設定やまとめの作成

- ・児童の発言や思考の流れに沿った授業展開で、学びの深まりを促すことができました。

##### ○ウェビングマップを用いた物語創作活動

- ・自分の興味・関心に基づく物語を創作する活動により、児童一人一人の意欲を高めることができました。

【ガイド学習の様子】

##### ○ガイド学習による児童主体の授業展開

- ・「ガイド学習の進め方」をもとに、  
ガイド役の生徒が中心となって、  
考えをまとめたり深めたりする様子  
が見られました。

個人の考え方をもとに  
作業スペースへ移動して  
考えをまとめたり  
深めたりしている



#### <中学校>

##### ○学習課題の選択による主体的な学び

- ・外国語科の授業において、自分のおすすめの音楽を英文で紹介する活動を通して、生徒の主体性を高めることができました。

##### ○生徒が自分のペースで課題に取り組むことができる授業展開

- ・教科書やワーク、タブレット等を用いて、生徒一人一人が自分なりの方法で課題を解決する様子が見られました。

### 2 ICTの効果的な活用

児童・生徒の思考を広げたり深めたりする工夫や、振り返りの支援に関する事例

#### <小学校>

##### ○生活科の授業における自発的なペア・グループ交流の様子

- ・アサガオの写真を用いた効果的な提示により、児童の興味・関心を高めることができました。またそれと同時に、観察時に注目する視点を与えることができました。

【授業の様子（小学校）】



自分の育てたアサガオを  
触ったり観察しながら  
交流をしている



#### <中学校>

##### ○授業支援アプリを用いた説明活動や学習機会の保障

- ・理科の授業における化学変化の様子を  
説明する活動を通して、自分の言葉で表現する力を育成していました。

【授業の様子（中学校）】

説明用シート



ペアで交流しながら  
説明用シートに  
入力している様子



- ・教室で授業を受けることができない生徒に対して、授業配信を行うことで学習機会を保障していました。

### 3 振り返りの充実

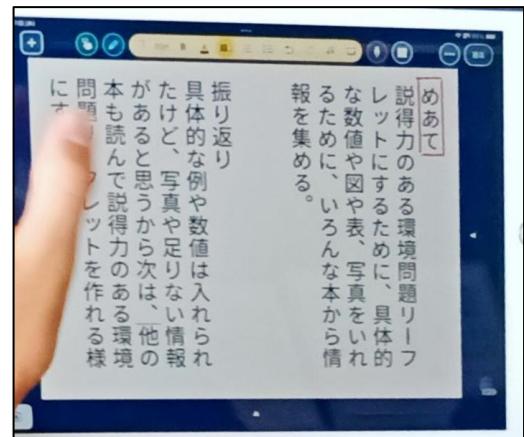
学習の成果や過程をふり返る活動を通じて、次の学びにつなげる工夫に関する事例

#### <小学校>

##### ○ロングレンジ学習での個別のめあてに基づいた振り返り

- ・児童一人一人がそれぞれに立てためあてに対する振り返りを行うことで、振り返りの視点が明確になっていました。

【振り返りの様子（小学校）】



#### <中学校>

##### ○本時の学習につながる振り返りの活用

- ・理科の学習において、毎時間の振り返りをロイロノートで蓄積・共有し、生徒自身の学びのメタ認知や意欲付けにつなげていました。

### 4 組織的な授業改善・若手教員の育成

学校全体で授業改善に取り組む様子や若手教員の育成に関する事例

##### ○板書記録と好事例の共有

- ・指導教諭が中心となり、校内研修等で板書記録の共有や好事例の紹介を行うことで授業改善が図られていました。

【研修用資料の一部（板書記録や好事例の紹介）】



##### ○各学校における授業改善における重点項目の略案への位置づけ

- ・重点項目を略案へ位置づけることで全教職員での共通理解が進み、組織的な授業改善につながっていました。

【略案への位置づけ例①】

【略案への位置づけ例②】

##### ○ベテラン教員との連携による若手教員の育成

- ・職員室の中で、教員同士がいつでも気軽に話せる環境をつくることで、若手教員がベテラン教員と意見を交流する機会を充実させている様子がうかがえました。

# 今後の課題・検討事項等

## 1 単元構想、本時のねらいと評価規準の整合性について

複数校で、単元目標が教師視点で設定されておらず、本時の活動に偏っている略案が見られました。また、ねらいと評価規準の整合性が取れていない授業も多く、児童・生徒の育成すべき資質・能力とのつながりが不明瞭でした。

○上記課題を改善するために各校で以下の点について検討してください。

- ・単元目標を教師の立場から明確に設定し、育成すべき資質・能力に基づいた評価規準との整合性を図ること。
- ・校内研修等で「単元構想と評価規準の在り方」について共通理解を深めること。
- ・子どもの変容(単元のゴールの姿)を具体的な姿で想定し、校内研究テーマと連動させながら組織的に授業改善を進めること。

○単元構想を意識しやすくするために、略案の様式を変更しました。

【略案様式（変更後）】

令和1年度佐伯教育事務所定期学校訪問用授業シート（様式A-②【改訂版】）※教科等（特別の教科 道徳を除く）※作成様式			
年 級	指導者		
単元名等 〔单元〕	資質・能力	単元の評価計画	内容
	知識及び技術	時間目	
	思考力・判断力・表現力等	時間目	
单元の実現に おける主な学 習活動や指導 上の工夫	学びに貢献する力、 人間性	時間目	
	単元の要領に おける主な学 習活動や指導 上の工夫		
ねらい 〔評価標準 〔観点〕〕	改訂版		
	〔あたて〕	〔問題〕	〔まとめ〕
本時 〔○／△実時 展開〕	〔振り返り〕		

※ただし、  
「総合的な学習の時間」の授業など、  
変更した様式での作成が難しい教科  
については、変更前の様式で作成し  
てもよいものとします。

## 2 振り返り場面の充実に向けて

振り返りの視点が本時の学習の成果についてのみであり、学習の過程や単元の学習のつながりといった視点が欠けている授業が見られました。

○上記課題を改善するために各校で以下の点について検討してください。

- ・振り返りカードや掲示物などを活用し、児童・生徒が自らの学びを可視化できるようにすること。
- ・教師が振り返りの視点を明確に示すことで、児童・生徒の思考を促すこと。

※振り返りの視点については、「本時の学習の過程」、「前時の学習のつながり」、「次時の学習へのつながり」、「単元の学習全体を通した振り返り」、「新たに解決したい課題」等様々な視点があります。その中で、教師自身が子どもに振り返らせたい視点をもち、期待する子どもの姿を具体的に設定することが肝要です（道徳科の授業を含む）。

## 3 子ども同士の対話の場面設定について

教師との対話が中心で、児童・生徒同士の対話的な学びの機会が不足している授業が見られました。

○上記課題を改善するために各校で以下の点について検討してください。

- ・ペア・グループ活動の目的を明確にし、児童・生徒が自発的に交流したくなるような課題設定を行うこと。
- ・対話の時間を意図的に設け、思考の深まりや協働的な課題解決力の育成につなげ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ること。